

外来診療のごあんない

診療時間	月	火	水	木	金	土日・祝
9:00 ~ 12:00 (受付 8:30~11:30)	渡邊 裕志	渡邊 裕志	渡邊 裕志	成田 渉	今田 元	休診
午後	休診					

新患を含め、外来リハビリをご希望の方は**完全予約制**です。
事前にお問い合わせください。



予約・お問い合わせ **022-351-8118**

[受付時間] 9:00 ~ 17:00 (月~金)

編集後記

皆さん、夏休みの予定はお決まりでしょうか。私は感染症の不安はありつつも、今年こそは実家に帰省しようと考えています。

広報誌をリニューアルし、1年がたちました。前号も就労支援を取り上げ、院内設置数の推移をみていると多くの方が手に取っていただいたのかな、と感じています。これからも皆さんに興味を持っていただける広報誌を作れるよう、頑張っていきます。

地域医療連携室 白田



看板の色が変わりました！

医療法人社団脳健会
仙台リハビリテーション病院
地域医療連携室

〒981-3341 宮城県富谷市成田1-3-1
Tel: 022-351-8118 (代表) 022-346-8497 (直通)
Fax: 022-351-8126
ホームページ: <http://www.sendai-reha.or.jp>



仙台リハビリテーション病院
ホームページ

[関連病院]
仙台東脳神経外科病院
〒983-0821
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12-1
Tel: 022-255-7117 Fax: 022-255-7760



Link!

TAKE
FREE

2023.7 Vol.22



Topics 外来リハビリテーション

Notice 食べる喜びの再獲得を目指して

ささやかなご褒美

皆さんはストレスをどんな方法で和らげていますか？現況、新型コロナウイルス感染症は感染症法2類相当から5類に引き下げられましたが、この恐怖感が3年も続くとは想像もしていませんでした。毎日が緊張感の連続でした。休日でさえ連絡が入ることを想定して生活する自分がいました。なんとも心身によろしくない。そんな1日を終えビールを1缶飲む、それが私にとっての至福の時だったような気がします。誰にも褒められず当たり前役割としてやってきた。だから自分へのささやかなご褒美のつもりです。プシュと缶を開けた瞬間、そしてキンキンに冷えたシュワシュワの気泡が液体とともに喉から食道、そして胃へと流れ込む感覚「まあ～美味しい」ビール好きの方であればこの気持ちをわかっていたでしょう。病院の広報誌に、ふざけた内容を書き込んで…きっとお叱りを受けるだろうと覚悟のうえで書いています。コロナ禍にかかわらずストレスは誰にでもありますし、感じ方も人それぞれです。ネットショッピングで気を紛らわした人、それでもアクティブに活動した人、ただひたすら時間が過ぎるのを待った人。そう考えると入院中の患者様はどう

なんだろう。うまくしゃべられない、手足が思うように動かない、もちろんビールだって飲めない。退院後に自立して生活を送るために必死でリハビリを頑張っている。コロナ禍においては家族との面会さえできず淋しい時を過ごした。スタッフだって同じでした。家族や同僚に気を遣い、患者様を守るため自分自身にたくさんの制限を強いてきた。私も頑張ったけれど、同じように患者様も、そして共に歩みを進めてきたスタッフも頑張った。ささやかなご褒美として褒めなきゃ！と改めて思います。やったことを褒めて認めることで相手のストレスが少しでも和らぐかもしれない。それもまた私の役割なのだから。

看護部部长 辻 美香子



Topic

リハビリ部
トピックス

外来リハビリテーション

当院の外来リハビリテーションでは、リハビリ専門の医師・リハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が、患者様の状態を評価し、個別の治療計画を立てて個々の目標に向かって、ケガや疾患によって機能が制限された患者様の回復と日常生活への復帰を支援する目的でリハビリを提供しています。

外来リハビリを利用している方は、当院退院後に継続して利用している方、他院から紹介されて医師に外来リハビリが必要であると判断された方で、脳卒中や骨折後といった方の割合が多いです。

理学療法や作業療法では、身体機能の機能回復を目標にする場合が多く、関節可動域や筋力の改善、歩行をはじめとする生活上に必要な動作（家事動作等）の練習なども行います。言語療法では、発語や言語理解の問題への支援、注意や判断力が低下している患者様への評価を行っています。また、医師も含めた多職種で連携して就労再開に向けての復職支援、脳卒中後の自動車運転再開に必要な評価も実施しています。

その他に、脳卒中後で下肢装具を利用している方の劣化した部分等の修理や、再作製についての相談支援も実施しています。

リハビリテーション部
外来担当主任
理学療法士 高島 悠次



リハビリ部

Notice

食べる喜びの再獲得を目指して

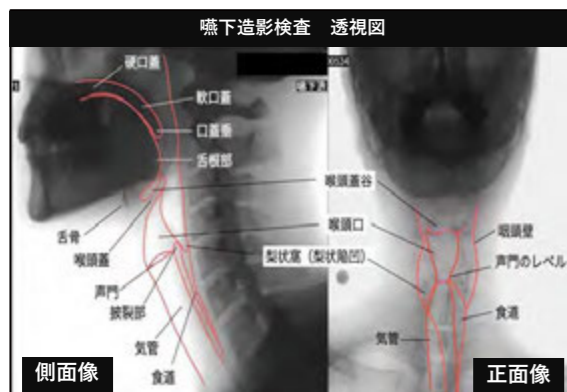
皆さん、おいしいものを食べるのは好きですか？私はとっても大好きです。

今回は言語療法部門で行っている「食べる」についての支援をご紹介させていただきたいと思います。飲み込みの問題は脳梗塞や脳出血などの脳卒中によって引き起こされるだけでなく加齢でも起こる身近な問題です。言語療法部門では、主に脳卒中後に飲み込みの力が低下された方を対象に検査や訓練を行い、その方にあった食事の支援を行っています。その中で、飲み込みって喉のことなのにどうやって検査するの？と思われる方もいらっしゃると思いますが、当院では「嚥下造影検査」を行っ

て飲み込みの様子を確認しています。嚥下造影検査とはバリウムなどの造影剤を含んだ模擬食品をX線透視下で飲み込んでいただき、透視した映像をもとに飲み込みや適切な食形態を評価する検査です。飲み込めるか飲み込めないかを見るだけでなく、安全に食べるための条件(食べる時の姿勢や適切な食形態、とろみ付けの有無等)を検討し誤嚥性肺炎の予防につなげています。

入院時には鼻からの管で栄養をとっている患者様に対しても、嚥下造影検査を行い段階的に姿勢、食事形態、食事回数、量の検討を細かく行い、退院後にはご家族とまた同じ食卓を囲んでいただけるよう日々リハビリを実施しています。

リハビリテーション部主任/言語聴覚士 菅原 直也



※出典：日本摂食嚥下リハビリテーション学会

仙リハ コラム

～ 地域医療連携室より ～

皆さまの声、 お気軽にどうぞ！

ご意見箱リニューアル！

これまでひっそりと設置していたご意見箱を、各職種と相談しながらこのたびリニューアルしました。設置場所も少し変更し、1階（電話ボックス内、ラウンジ）、2階病棟・3階病棟（デイルーム）院内計4か所に設置しております。

ご意見箱の中は地域医療連携室のスタッフが定期的に確認しています。頂いたご意見は関係各所と共有し、ご指摘の事項については真摯に受け止め改善策を検討したり、お褒めの言葉に喜んだりしています。返答は1階の地域医療連携室掲示板や、各病棟へ掲示する予定です。

今後の病院運営のため、ぜひぜひ皆さまの声をお聞かせください！お待ちしております。



相談室新設！

1階外来診察室の隣に相談室ができ、和やかな雰囲気皆さまをお迎えできるようになりました。

込み入った内容でもゆっくりとお話できるような環境を整えておりますので、お困りごとなどありましたらどなたでもお気軽にスタッフへお声がけください。

相談員以外に、他の職種も活用しています。院内外の皆さまが快適に過ごせるような空間になることを願っています。



実際の相談室です！

※人物はイメージです

地域医療連携室
医療ソーシャルワーカー 大川 綾乃



ご質問にお答えします！



Q どれくらいの期間入院できますか？

A 病気、けがにより上限日数が決められています。患者様の状況に応じて入院中個別に相談しています。

Q 入院中、パソコンの持ち込みは可能ですか？Wi-Fiはありますか？

A 主治医の許可があり、ご自身で管理できる方であれば通信機器類のお持ち込みは可能です。（※破損時の責任は負いかねます）
スタッフへ直接ご相談ください。
入院患者様のみ、各病棟の食堂にてフリーWi-Fiに接続できます。

